

府内若手畜産農家との交流と技術支援

2月9日、京都大学附属牧場（京丹波町）で若手和牛飼養農家の後継者6名の技術向上を目的に、南丹広域振興局が主催する畜産経営継承支援塾（畜ナビ）が開催され、当該職員は技術指導の講師として出席しました。

講義では、当該が今年度から始めた「繁殖雌牛預託事業」の成績や CIDR-synch* 法など受胎率向上のため実施している繁殖技術など紹介したところ、参加者からは、育成期の子牛の飼料給与方法やほ乳期の母牛の管理方法など多くの質問があり活発な意見交換ができました。

今後も府内農家と積極的に交流を図り、畜産経営の発展に向けた関係の構築に努めます。

*CIDR-synch：臍内留置型黄体ホルモン製剤による発情同期化



当該職員の講義



京都大学附属牧場の牛舎を見学

畜産センター
碓高原牧場